

◆県民の皆様へ◆

感染性胃腸炎について

- 細菌やウイルスなどの感染による嘔吐、下痢を主症状とする病気です。
- ロタウイルスやノロウイルスなどのウイルスによる感染を原因とするものが多く、毎年秋から冬にかけて流行します。
- 乳幼児に好発し、1歳以下の乳児は症状の進行が早いため、注意が必要です。

《症状》

- 病原体により異なりますが、1～3日程度の症状のない期間の後に症状が出現します。
- 主な症状は嘔吐と下痢です。37～38℃の発熱がみられることもあります。
- 原因となる細菌やウイルスなどにより、発熱、下痢、悪心、嘔吐、腹痛など異なる症状が見られ、症状の程度にも個人差が見られます。
- 感染しても発症しない場合や、軽い風邪のような症状の場合もあります。

《感染予防のポイント》

- 食事の前やトイレの後などには、必ず手を洗いましょう。
- 下痢や嘔吐等の症状がある方は、食品を直接取り扱う作業をしないようにしましょう。
- 患者の便や吐物は適切に処理し、感染を広げないようにしましょう。
- 病原体に汚染されている可能性がある食品は、中心部までしっかり加熱して食べましょう。また、調理器具等は十分に洗浄、消毒しましょう。